

若松一高自動車科3年生

愛車点検、恩師に感謝

会津若松市の若松一高自動車科の生徒たちは、ことし初めて、中学の恩師の愛車を出張点検する「恩返し号」プロジェクトを開始した。3年生が点検報告を兼ねて母校を訪ね、高校で身につけた専門知識や技術で恩師の車を点検する。生徒の考案で始まり、これまで5人が「恩返し号」を発売させた。中学時代の担任の内藤晃教諭(50)を訪ねて車を点検した佐藤大和さん(18)は「今の自分があるのは若松一高自動車科への進学を勧めてくれた先生ののおかげ」と感謝を込めながら、作業に汗を流した。

人ま
まち

きこり

自動車科では、3年間の授業や実習で自動車点検の基礎的な知識や技術を学ぶ。 「恩返し号」は、オイル交換やバッテリー、タイヤの空気圧チェックなどの項目を点検。エンジンルームや足回りなどを点検し、チェックシートに書き込んだ内容を説明する。

中学校訪れ 進路も報告

恩師の愛車を点検する佐藤さん(左)と教え子の姿を見守る内藤教諭



点検には、8月に行われ、師に来春の大学進学を報告した「ワールド・ソーラーカー」の船が進路などの相談に乗って、1・うりうり00」の船が進路などの相談に乗って、電油クラスで点検した。進路など、佐藤さんは中、学時代、学校を休むことが多かったというが、「先生が以降も続けていきたい」とし、同校への進学を勧めてくれたおかげで、自動車科に進学している。

の勉強や気の合う友達、先生たちと出会えた」と感謝している。高校では、3年間ほぼ毎週で登校し、ひと回り成長した姿を見せた。内藤教諭は、てきぱきと作業をこなす教え子の姿を見ながら「中学の時は私に頼むこともあったが、今は自分でしっかり判断して作業している。大人になったなあ」と目を細めた。最後は「自動車整備は人の命に関わる責任重大な仕事。でも、これなら安心して任せられる」とうれしそうに太鼓腹を押しした。